

胃の手術を受けられる方へ（全摘・噴門側胃切徐）

月日（日時）	／	／	／
経過（病日等）	手術前日	手術直前	手術直後
達成目標	・手術に必要なものの準備が整い、不安なく手術に臨むことができるようにしましょう。	・安全に手術を受けることができるように準備をしましょう。	・痛みが少ない状態で過ごせるようにしましょう。 ・安静に過ごしましょう。
点滴	・医師により、手術のための点滴の注射をします。 （注射部位：内頸静脈または鎖骨下静脈）	☐ 手術室にて点滴があります。 ☐ 午前中に点滴を始めます。	・内頸静脈または鎖骨下静脈の太い血管から点滴をします。
薬	・現在内服している薬を確認します。 ☐ 通常通りにお飲みください。 ☐ 中止の薬があります。 （  ） ・昼食後に下剤を内服します。 ・夜間、眠れない場合は睡眠剤を内服します。	☐ 内服薬はありません。 ☐ （ ）時に（ ）を内服します。	・痛みが強い場合は、痛み止めの薬もあります。我慢せず、医師又は看護師にご相談下さい。
検査	・身長・体重測定をします。 ・必要に応じて検査が入ることがあります。		・（血液検査/尿検査/レントゲン）があります。
処置	・感染予防のためにお臍の掃除と必要な範囲の除毛をします。		・足に血栓予防のためにフットポンプ（ふくらはぎのマッサージ器）が付きます。 ・手術室で鼻（胃管）とお腹に管が入ってきます。 ・背中からは痛み止めの管も入ってきます。 ・酸素吸入を翌日朝まで行います。 ・手術後より血糖測定があります。
活動 安静度	・制限はありません。	・手術室へは車いす、または歩いて行きます。	・ベッド上安静になります。
食事	・夕食は5分粥食とOS-1 500mlをお配りします。 ・午後9時より禁食です。 ・午前0時以はOS-1のみ飲水可能です。	・手術が午後の場合は朝8時にOS-1 500mlをお配りします。 ・手術開始3時間前までにOS-1をお飲みください。	・禁飲食です。 
清潔	・お臍の掃除と除毛後にシャワーを浴びてください。	・朝の洗顔・歯磨き・男性の方は髭剃りをしてください。 ・保湿クリーム・お化粧品はしないでください。	・身体を拭くための温かいタオルをお持ちします ・パジャマへの着替えをお手伝いいたします。
排泄	・下剤内服後に排便がありましたら看護師にお知らせください。	・朝、排便状況を確認します。 ・朝までに排便が無い場合は浣腸をします。 ・手術前にトイレをすませてください	・手術後は尿の管が入っています。 ・手術後はベッド上での排便となりますので、ナースコールでお知らせください。
患者様への説明 生活指導	・入院生活について説明いたします。 ・手首にネームバンドをつけます。 ・手術の一連の流れについて説明いたします。 ・手術に必要な物品を確認します ・医師から手術について説明があります。 ・手術に関する同意書を確認します。 ・手術中の顔色や爪色の観察のため、化粧やマニキュアは落としてください。	・手術予定時間は（ ）時頃です。 ・手術衣に着替えて、下着を全て外し準備してください。 ・弾性ストッキングを履いてください。 ☐ 8時までに着替えをして準備をしてください。 ☐ （ ）時までに着替えをして準備をしてください。 ・手術室へ出発するときは、時計・眼鏡・コンタクトレンズ・入れ歯・指輪・湿布、ヘアピンなどを外します。 ・長い髪の方は飾り・金属のないゴムで髪の毛を2つにむすんでください。	・ご家族の方は看護師が声をかけるまでラウンジ、個室の方はお部屋で待機してください。

※治療・経過については、現時点で考えられるものであり、今後検査・治療経過によって変更になる場合があります。
※入院期間については現時点で予測される期間です。

胃の手術を受けられる方へ（全摘・噴門側胃切除）

月日（日時）	/	/	/	/	/	/
経過（病日等）	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目	手術後7日目
達成目標	・痛みが少ない状態で過ごせるようにしましょう。 ・散歩や日常の動作ができるようになりますように。				・ゆっくりと食事を摂ることができるようになりますように。 ・ダンピング症状について理解し、対処できるようになりますように。	
点滴	・内頸静脈または鎖骨下静脈の太い血管から点滴をします。 					
薬	・痛みが強い場合は、痛み止めの薬もあります。我慢せず、医師又は看護師にご相談ください。 				・中止している薬の再開時期について、医師または看護師から説明があります。 ・痛みが強い場合は、痛み止めの薬もあります。我慢せず、医師又は看護師にご相談ください。	
検査		・（血液検査/レントゲン）があります。			・手術後6-8日目に透視（消化管の流れを見る検査）を行います。	・（血液検査/レントゲン）があります。
処置	・血糖測定が（朝・昼・夕）にあります。	・血糖測定が（朝・昼・夕）にあります。 ・背中痛み止めの管は手術後3日目に抜ける予定です。	・血糖測定が（朝・昼・夕）にあります。		・血糖測定が（朝・昼・夕）にあります。 ・お腹の管を抜きます。	・血糖測定が（朝・昼・夕）にあります。 ・医師によりお腹の糸を半分抜糸します。
活動 安静度	・室内歩行ができるようになりますように。	・病棟内歩行ができるようになりますように。 ・ラジオ体操に参加しましょう。	・制限はありません。 ・ラジオ体操に参加しましょう。 			
食事	・禁飲食です。 		・氷のみ摂取可能となります。看護師がお持ちします。	・飲水が開始になります。 初回飲水は看護師見守りのもと行います。	・胃切食1を提供いたします。	・胃切食2を提供いたします
清潔		・看護師が洗髪を行います。 ・身体を拭くための温かいタオルをお持ちします。		・身体を拭くための温かいタオルをお持ちします。 		・看護師が洗髪を行います。
排泄	・手術後2-3日目で尿の管を抜きます。 ・尿の管を抜いた後も尿量を測ってください。		・1日の尿量を測ってください。 			
患者様への説明 生活指導	・お腹や首に管が入っているため、動く時には引っばられないように注意してください。 ・少しずつ歩く範囲を広げて行きましょう。			・1回目の栄養指導があります。栄養士がお部屋に伺います。	・ダンピング症状について知りましょう。（別紙参照） ・食事はゆっくり時間をかけて摂取してください。 ・食事中、食後に気持ち悪い、お腹が痛い、冷や汗があるなど異変がありましたら、食事は中断し看護師へお知らせください。	

※治療・経過については、現時点で考えられるものであり、今後検査・治療経過によって変更になる場合があります。

※入院期間については現時点で予測される期間です。

胃の手術を受けられる方へ（全摘・噴門側胃切除）

月日（日時）	／	／	／	／
経過（病日等）	手術後8日目	手術後9日目	手術後 10 目	手術後 11 日目～
達成目標	• ゆっくりと食事を摂ることができるようにしましょう。 • ダンピング症状について理解し、対処できるようにしましょう。 • 排便コントロールをしましょう。 			• 退院後の生活について、必要な知識を得ることが出来るようにしましょう。
点滴	• 内頸静脈または鎖骨下静脈の太い血管から点滴をします。	• 内頸静脈または鎖骨下静脈からの点滴が終了したら、末梢(手)より点滴を開始します。		• 体調を見ながら点滴の管を抜きます。
薬	• 痛みが強い場合は、痛み止めの薬もあります。我慢せず、医師又は看護師にご相談ください。			
検査				
処置	• 血糖測定が（朝・昼・夕）にあります。 • 医師により全抜糸（残った半分の糸の抜糸）をします。	• 内頸静脈または鎖骨下静脈の点滴を抜きます。 内頸静脈または鎖骨下静脈からの点滴が終了したら、血糖測定は終了です。		
活動 安静度	• 制限はありません。 • ラジオ体操に参加しましょう。 			
食事	• 胃切食 3 を提供いたします。	• 胃切食 4 を提供いたします。	• 胃切食 5 を提供いたします。	• 胃切食 6 を提供いたします。
清潔				• 点滴の管、お腹の管が抜け、抜糸が終わっていましたら、シャワー浴ができます。
排泄	• 1 日の尿量を測ってください。		• 尿量の測定を終了します。	
患者様への説明 生活指導	• ダンピング症状について知りましょう。（別紙参照） • 食事はゆっくり時間をかけて摂取してください。 • 食事中、食後に気持ち悪い、お腹が痛い、冷や汗があるなど異変がありましたら、食事は中断し看護師へお知らせください。 			• 2 回目の栄養指導があります（別紙参照）。栄養指導はお家でお食事を作られる方と一緒に聞きましょう。 • 退院時、次回外来日について看護師より説明します。 

※治療・経過については、現時点で考えられるものであり、今後検査・治療経過によって変更になる場合があります。

※入院期間については現時点で予測される期間です。